

3歳の妹に毎日せがまれて読む絵本。かたわらでは本人も聞いているのですが、今日はいっしょに楽しみました。『ぼくぐずっぺじゃないぞ』チョイスしたのは、私が幼い頃好んで読んでいた絵本でした。さし絵が本人に似ていて、主人公の「しょうちゃん」を「ようちゃん」に変えて読むと、2人とも大喜び。楽しい時間でした。私の母がそうしてくれたように、私もまた、この1冊を含め読み継がれていく絵本として、今手元にある私の幼い頃の思い出の本たちを、私の子どもたちに残していきたいと思います。

(3年 美齊津よう 母)



兄弟で本を読んで、いつもとはちがった時間をもててよかったと思います。

(1年 西沢りく 母)

「お父さんはウルトラマン」を春南が読んでくれました。照れながらも一生懸命私たちに読み聞かせしてくれました。上手に読めて成長を感じました。

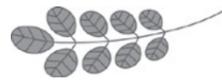
(1年 佐藤はるな 母)

いっしょに1冊の本を読み合いました。大きな声で読めてよかったです。上手に読めました。

(1年 小林ゆま 母)

子どもが1年生になって、初めて学校の図書館から借りてきた本をいっしょに読みました。ストーリーが楽しく、簡単な絵本なので、子どもがほとんど自分で読んでいました。家族が聞いていてくれるのも、嬉しかったようです。

(1年 古田るい 母)



お家の方の感想「北小「親子読書感想記入カード」より」

今回は別々の本をいっしょの時間に読みました。ゆったりした時間がもててよかったです。この頃寝る前にしていた読み聞かせをしていないので、次回やってみたいです。

(3年 浜ゆの 母)

今回は、家族のために貫汰が絵本を読んでもくれました。兄弟の話ですが、家の姉弟と同じような行動が本の中でくりひろげられていて、ほほえましく聞いていました。またとても上手に読んでくれてうれしかったです。楽しい時間を過ごすことができました。

(3年 堀内かんだ 母)

何才になっても、いっしょに同じ本を読むということは楽しい時間でした。短い時間でしたが、久しぶりに子どもと本を読めました。

(3年 林あつや 母)

図鑑をいっしょに見ながら、読み聞かせをしてくれました。知らないことがたくさん詰まっている図鑑は、子どもにとっては興味を満たしてくれるツールであり、親世代にとっては、子どもの頃に読んで感心したり、感動したりした、なつかしい思い出の詰まったものであり…。

いっしょに見ることができてよかったです。(3年 杉浦ひな 母)

父親が読み聞かせをしてくれて、家族みんなで聞き入るといった時間がありました。これは初めてかも…。本人も父親にすりより、甘えるような態度を見せていました。

その後は、一人で好きな本のシリーズを黙々と読んでいました。

(3年 堀内たから 母)



毎月第2日曜は「家庭読書の日」～家族いっしょに本を楽しみましょう～

読書は日常の中のごく自然なもの

「親子読書で、楽しさが更に増えて」

西浜町 濱 あづさ・喜和子

子の立場で

私は、父と母と親子読書をする事によって、本を読む楽しみが更に増えたように感じます。好きな本や作家について話したりすることで、父や母との会話が以前よりもっと豊かになりました。お互いに勧め合った本を読み、感想を言い合うと、互いの感じ方、思ったことに同感する所や驚きがあったりして、とてもおもしろいです。



新しいジャンルの本にも挑戦

私の本の選び方も変わりました。以前は自分の読みたい本だけ

けを選んでいましたが、今は新しいジャンルに挑戦してみたり家族が好きそうな本があったら勧めてみたりしています。自分の世界も広がるし、勧めた本を読んでもおもしろかったと言われると嬉しいですね。父と母は、私がまだ言葉を話さない頃から、毎晩寝る前に本を読んでくれていたそうです。赤ちゃんの頃は、同じ絵本を何度も読んで、少しずつ言葉が話せるようになってくると、ちよつと長い本を読んでもくれたりということをしていたそうです。そのおかげか、私の生活の中で本を読むということは、ごく自然なことになっていました。そのように私を育ててくれたことに感謝しながら、これからも、本がすぐ側にあるという環境を大切に、充実した生活を送っていきたいです。(下中二年 喜和子)



最近親子で読んだ本

親の立場で

今までは、好きな作家やジャンルのものを読んでいましたが、子どもが大きくなると、「これ面白いから読んでみて」と勧められる本に熱中したり、小学生の息子が真剣に話してくれる本を読んだり、子どもたちによって本の楽しみ方が変わってきました。

子どもたちが低学年までは、毎晩読み聞かせをし、与えるばかりだったものが、今は寝る前のひとときに、個々で本を読みながら感想を言い合ったりして、穏やかな時間を本と共に過ごしています。最近では、学生時代に読んだ本を読み直してみたり、時代小説など新しいジャンルに挑戦したり、娘に負けじと「こ



小学生の息子と

れ面白いね」と言ってもらえるような本選びをしようと、私自身が楽しんでいきます。自分が面白いと思う本を子どもたちと共有することで、会話や本の楽しみ方も更に増えたように思います。本は、目の前のいつも手の届くところにあるもので、私たち親子にとって、日常の中のごく自然なものです。「さあ読むぞ」と意識しながら読むことはありませんが、生活の中の一コマに彩りを添えてもらっている存在です。秋から冬にかけて、長い夜の時間を親子で楽しみつづ、これからも子どもたちとの時間を大切にしていきたいと思っています。(母 あづさ)